



「仕事探せ」だけでは…

働きたくても働けない現実

増え続ける生活保護の受給者。「働ける人も多いんじゃないか」。そんな声も、よく耳にする。受給者は本当に、働けるのに、働いていないのか。

不器用な人ほど就労難

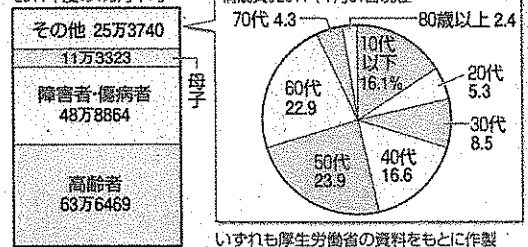
その30代の男性は約10年前、東北地方の海辺に近い町のコンビニに実家からアルバイトに通っていたという。店は毎月1日、売り上げが伸びた。不思議に思っていたら、同僚のパート女性が言った。「生活保護費の支給日だから、受給者がたくさん来るんだ」

生活・社会訓練 細やかな支援必要

「自分も自分も病気があり、生活保護を受けている」と話す60代前半の男性がいた。その親子がパチンコ店に入るのを何度も目にした。なんとなく、生活保護に疑問を感じた。

講座では最初、人前での自己紹介にさえ抵抗を感じた。だが、「逃げたら、これまでと同じ」。通い続け、それが自信になった。就職の面接で「講座と違って厳しいですよ」と言われても、「わかっています」と答えられた。

【その他の世帯】の受給者の年齢
受給者はその世帯の世帯主以外も含めた構成員。2011年7月31日現在



【仕事チャレンジ講座】の受講生たち＝横浜市中央区

受給者には路上生活が長かった人も多い。就職しても人間関係がうまく築けず、長続きしなかった人もいる。

講座では毎日通って規則正しく生活する「生活訓練」からスタート。「社会訓練」で人前で話すことに慣れ、「技能習得訓練」で清掃会社の役員からビル清掃の技術を学ぶ。2011年度に始めて125人が修了。76人が就労した。

世帯類型別にみた生活保護受給世帯数 2011年度の1カ月平均

その他	25万3740
母子	11万3323
障害者・傷病者	48万8864
高齢者	63万6469

いずれも厚生労働省の資料をもとに作製

世帯が4割を占める。世帯主が障害や病気で働けない障害者・傷病者世帯を含めると、全体の4分の3に上る。

(沼田千賀子)